



「鉄道コンテナ見学会」を開催しました ～モーダルシフトの推進に向けて～

平成30年2月27日、物流事業者や荷主企業11社16名の参加のもと、広島貨物ターミナル駅において「鉄道コンテナ見学会」が開催されました。本見学会では、CO2削減のみならず、物流分野における深刻な労働力不足対策にも貢献する「モーダルシフト」において利用される、鉄道輸送コンテナにスポットを当てました。



第一部では、JR 貨物から DVD 映像と資料による説明があり、その中で「鉄道輸送はトラックに比べて CO2 排出量が 10 分の 1 であること」、「顧客からの問い合わせに対応するため、列車の位置情報をリアルタイムに確認することができるシステムを導入していること」や「鉄道による輸送は定時制が高いこと」などの説明がありました。当局からは、物流の危機的状況、モーダルシフトに係る国の政策や支援制度を説明しました。

第二部は、広島貨物ターミナル駅舎屋上において、貨物駅の全景を見ながら、荷役作業などの説明が行われ、その後、31フィートウィングコンテナ、一般的な12フィートコンテナ及び+25°～-25°まで幅広い温度設定が可能である12フィートクールコンテナが展示されている場所に移動しました。展示されたコンテナの前では性能や特色の説明があり、参加者は興味深そうに聞いていました。



見学会には、昨今の労働力不足による物流危機への関心の高まりから新聞社2社、テレビ局3社の取材があり、新聞記事の掲載やニュースでも様子が放映されました。

交通政策部では、今後もこのような機会をとらえて、「モーダルシフト」を積極的にPRし、推進していきます。